

2015年10月27日(火)付 朝日新聞「南京都版」に掲載

自然派保育 20年を本に

同園は保育士の林さんが1996年、自宅の一室を改装して開園。他の保育園に通っていた息子が帰宅したときの暗い表情を見て、「子どもが毎日笑つてすぐせる保育園をつくりたい」と考えたことがきっかけだった。近くに土地を借りて園舎を建てるなど、手探りで運営し、現在は市内外から2~6歳の20人が通う。

保育理念は「自然と共に」。

園児は近隣の地主や施設が貸してくれた森の中で、落ち葉遊びや栗拾いをして走り回る。園舎に時計はなく、園児の「おなかすいた」という言葉や様子を感じ取って昼ご飯にするなど、園児が集中して遊べる環境を作っている。

「思いっきり遊ぶことの楽しさを覚えることで、自分の好きなことや、やりたいことをうまく見つけられるように

園舎に時計は置かない。山を走り回り、雨の日は傘を差さず

に外で遊ぶ。そんな自然派保育をする私設保育園「てんとうむし幼稚園」(京田辺市大住)が創立20年を迎えた。林恵子園長(56)は「保育に本当に必要なものは何かを知つてもらいたい」と、歩みを振り返る本を出版した。

京田辺の私設保育園長が出版

「何事も恐れず前へ進み、
やっぐり流れるてんどう
むしの時間の中で重ねた経験
により、自分のスピードで生
徒めずに挑戦し続ける」と教わった

なる。そしてそこに向かって
あきらめず頑張る力が身につ
くんです」と林さんは話す。

本では、卒園生たちの寄稿
も紹介されている。

友だちとしつかりとコミュニケーションを取りながら遊ぶ
ことが重要だと説く。社会性
を身につけることで、他人の
痛みを知り、思いやる心が育
まれるからだ。「この本で、て
んとうむし幼稚園の一風変わ
った保育を知つてもらうのと
同時に、幼少期の保育の大切
さについても改めて考えても
らうきっかけになればうれし
い」



園舎の前で本を持つ林
恵子園長(京田辺市)

出版した「てんとうむし幼
児園で育む 子どもの生きる
力」では、園の歩みや方針、
保護者、卒園生の声をまとめ
ている。1500円(税抜
き、幻冬舎)。書店やインタ
ーネットで販売。問い合わせ
は同園(0774・62・38
63)。

(興津洋樹)

ければいいんだといふことを
学んだ」

幼稚園で学んだりいは、そ
の後の人生でも生かされてい
るようだ。

小学生の暴力行為が昨年度

過去最多となったことに、林
さんは心を痛める。「近年の保
育の質が下がっているのではないか」

林さんは、乳幼児の時期に

ケーションを取りながら遊ぶ

ことが重要だと説く。社会性

を身につけることで、他人の
痛みを知り、思いやる心が育

まれるからだ。「この本で、て
んとうむし幼稚園の一風変わ
った保育を知つてもらうのと

同時に、幼少期の保育の大切
さについても改めて考えても
らうきっかけになればうれし
い」